キャラクター名
後藤　秀樹

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル サラマンダー	ワークス	走り屋(DownSeekers)	カヴァー	バイク屋
オプショナル		年齢	20才前後(19～23)	性別	男
覚醒	死	衝動	解放	初期侵食率	36 %
出自	安定した家庭	経験	大きな転機	邂逅	借り

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4	1	0			5
感覚	1		0			1
精神	1		0			1
社会	2		0			2

HP	31
行動値	3
(非装備時)	3
戦闘移動	8
全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	5		射撃			ＲＣ			交渉	1	
回避			知覚			意志	3		調達	1	
運転：バイク	3		芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
炎を纏う旗(攻撃)	白兵	7r+1	8	15		侵食値10
氷を纏う旗(ガード)		0	侵13	34+2D		装甲+5、ガード+30、ダメ直前+2D+10
60%＝＝＝＝＝＝＝		0				※旗ガード+１５点、1シナリオ３回
炎を纏う旗(攻撃)	白兵	8r+1	8	15		侵食値10

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
ＤＳ黒ジャケット	0	3	0	0	あらゆる社会判定を+5、1シナリオ3回
伝説の旗	0	0	0	0	ガード値：5、命中-4、攻撃+6、1シナリオ3回【ガード+値15】

合計装甲：	3	合計回避：	0

所持品	
ウエポンケース(伝説の旗)	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
屍人	P	N		
藤村真	P　尊敬	N　不安		
金剛龍生	P　友情	N　隔意		
黒吹シュウ	P　感服	N　不安		
八文字	P 連帯感	N 不信感		
金剛龍生	P　友情	N　侮蔑		
	P	N		

最大財産P:　6	残り財産P：　5

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセントレイト	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：C値を【-LV】								
炎神の怒り	3	3	メジャー	-	-	対決	-	
効果：判定【LV+1】D、HP-3消費								
煉獄魔神	3	3	メジャー	-	-	対決	リミット	
効果：攻【LV×3】、上記HP-3消費なし								
伸縮腕	1	2	メジャー	視界	-	対決	-	
効果：【3-LV】、射程を視界へ変更								
崩れずの群れ	1	2	オート	至近	自身	-	-	
効果：1プロセスに1回カバーリング								
氷盾	3	2	オート	-	自身	自動	-	
効果：ガード宣言時、ガード値【LV*5】								
氷河の壁	2	3	オート	至近	範囲	自動	リミット	
効果：ダメージ前に-10、1シーンLV回								
命のカーテン	1	4	オート	10m	自身	自動	-	
効果：⑤と合わせてカバーリング								
鋼の氷	2	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果：ガード+10、1シーンLV回								
炎の理	1							
効果：								
親衛隊	1							
効果：								
十徳指	1							
効果：								
効果：								

＜性格・設定＞
ちゃらくはないが、見た目赤髪の派手な見た目。
今でもバイクに乗るが昔ほどはない。
バイクショップ『青春』の店員で若者から慕われている。
実は数年前、『伝説のチーム：DownSeekersのNo4として
メカニックをやっていた経歴がある。また、DownSeekersでは
旗持ちも色々やっていた。
その時、両手離しでバイクの後ろに乗るため、よく落下していた。
その時、Ｄロイス『屍人』が身についた。

＜DownSeekers＞
つまらない学校生活に飽き飽きしていた学生時代、１つ上の先輩、
藤村真に誘われ、数年前にDownSeekersへ参加。
バイクに乗るのも好きだったが、機械いじりの方面で
メカニックとして仲間達に慕われていた。
DownSeekersのNo2.金剛龍生達と馬鹿やる毎日、充実していたが
規模が大きくなるチームに不安は感じていた。

そんなある日、藤村真が唐突にチームを離れた。
その時、DownSeekersの旗を掲げるのは、お前に任せると藤村から託される。
昔からの仲間も自分と同じ不安を感じていたのだろう。
１人また１人とチームから離れていったときに自身もDownSeekersを離れた。